

## 問題【国語】

次の言葉をローマ字で表記してみましょう。

1. あさがお
2. きんぎょ
3. 岐阜

## 豆知識 雑学コラム

### ローマ字、二つの書き方

今回はローマ字について考えてみましょう。ローマ字は、もともとひらがなや漢字の分からない外国の人でも日本の人名や地名などを読めるように、アルファベットを使って読み方を表したものです。さて、今回問題に出した「岐阜」はローマ字で書くと「Gifu」と「Gihu」の二つの書き方があります。なぜ、二つの書き方があるのでしょうか。掘り下げていきましょう。

まず、ローマ字では「か」を「ka」と表すように、基本的に子音の文字（k,t,nなど）と、母音の文字（a,i,u,e,o）の2文字の組合せで一つの平仮名を表します。この時、「は（ha）、ひ（hi）、ふ（hu）、へ（he）、ほ（ho）」と同じ行は同じ子音の文字を使った方が規則的で覚えやすいですよね。このように五十音表をもとに規則的で覚えやすくしたローマ字の表記を訓令式と言います。訓令式では、しを「si」、ちを「ti」と書きます。

一方で発音について考えてみましょう。「hu」は英語だと「human（ヒューマン）」のように「ヒュ」と発音します。米国の人が「Gihu」という文字を見て、発音しようとするすると「ギヒュ」と読んでしまい、これでは「ギフ」になりません。英語圏の人にとって、「Gihu」というよりも「Gifu」の方が日本語の「ギフ」に近く発音できるのです。このように外国の人が日本語の音により近く発音できるような表記をヘボン式と言います。ヘボン式では、しを「shi」、ちを「chi」と書きます。

覚えやすさを重視した訓令式、日本語の発音に近いヘボン式と二つの書き方がありますが、どちらも正しい書き方であることに変わりありません。最近ではパソコンのキーボードなどでローマ字入力をする機会が増えたため、昔と比べるとローマ字を使うことも多くなりました。それに伴い、「lyu」「xyu」と入力すると「ゆ（小さい「ゆ」）」が出てくるといった新しいローマ字に関わる決まりも普及してきました。漢字、ひらがな、カタカナだけでなく、ローマ字でもいろいろな言葉が入力できるようにローマ字の規則もしっかり覚えたいものですね。

## 【解答】

1. Asagao
2. Kingyo (Kingyo/Kin'gyo)
3. Gifu (Gihu)